

「保育所における職場体験受入れ状況に関するアンケート」 調査結果の概要

1 保育所における職場体験受入れの状況

調査のあらまし

(1) 調査目的	東京都内の保育所における、小学生、中学生、高校生の職場体験の受入れ状況を把握し、取組みをすすめるためのさまざまな工夫や課題を明らかにする
(2) 調査時期	平成27年6月25日～7月31日
(3) 調査対象	東京都内認可保育所（東社協会員保育所）
(4) 実施方法	FAX・郵送による送付、FAXによる回収
(5) 回答状況	904 か所
(6) 回答施設の運営形態	公設公営 418 か所 (46.2%) 公設民営 86 か所 (9.5%) 民設民営 400 か所 (44.2%)

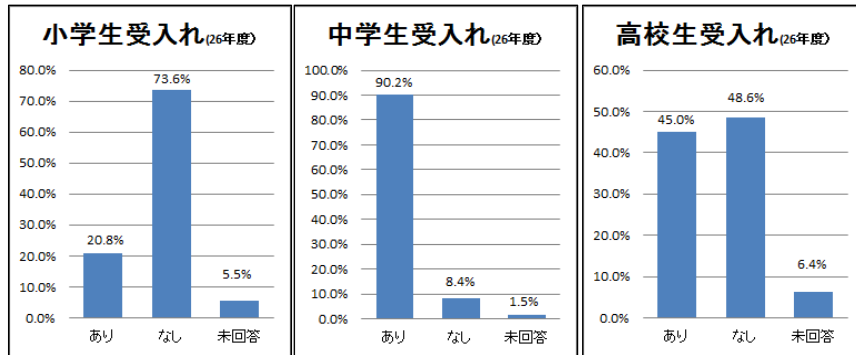
＜保育所における職場体験受入れの状況＞

ポイント1 約9割の保育所が「中学生の職場体験」の受入れを行っている。

保育士資格取得をめざす方の実習受入れは、97.9%の保育所が「受入れている」と回答しました。また、職場体験に関しても、中学生の職場体験受入れは90.2%の保育所で行われていました。小学生に対しては20.8%、高校生に対しては45.0%の保育所で受入れが行われていました。その他にも、看護実習生や大学生、小中学校教諭研修、インターンシップ、企業ボランティア等さまざまな立場の方の受入れを行っていました。

なお、公設・民設による結果の差は特にありませんでした。

図1 小学生・中学生・高校生の職場体験受入れの状況（26年度） N=904 単位：%



【その他さまざまな方の受入れ（主な内容）】

ボランティア（小学生、中学生、大学生）、特別支援学校生徒、就職を考えてのボランティア体験（専門学校、短大、大学）、看護実習生、短期国際交流、小中学校教諭研修、インターンシップ、企業ボランティア、社会人福祉体験等

＜職場体験受入れまでの経緯＞

ポイント2

「教育委員会」「保育主管課」「学校」「本人・保護者」からの依頼が多いが、保育所から働きかけての受入れも行われている。

受入れまでの経緯をたずねたところ、区市町村からの依頼の場合は、学校や教育委員会から保育主管課へ依頼があり、その後、保育主管課から各園や園長会へ依頼があるという回答が多くみられました。区市町村のかかわりについては、「協力依頼」のみで個別の調整は学校と保育所が行うものから、区市町村が事業所に対して受入れに関する調査を一括して行い学校と調整してから依頼がくるというものまでさまざまでした。

また、依頼を受けるだけではなく「保幼小中連携会議で保育園側より提案」など「保育園から働きかけて」という回答も複数みられ、主に卒園児を中心とした小学生に対しての働きかけが多く行われていました。

＜小学生・中学生・高校生の受入れ学年と受入れ時期＞

ポイント3

中学生の受入れでは、「中学2年生」が8割を超える。
受入れ時期は「7月」「8月」「9月」が多い。

小学生では、「6年生」（38.3%）の受入れが最も多く、次いで「5年生」（33.0%）でした。受入れ時期は「8月」（30.9%）が最も多くなっています。

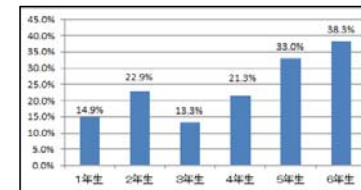
中学生では「2年生」（85.3%）が最も多く8割を超え、他の学年との差が顕著です。文部科学省の「中学生の職場体験」が大きな割合を占めていることが考えられます。受入れ時期については、「9月」（39.8%）が最も多く、続いて「7月」（33.4%）でした。

高校生では「2年生」（47.2%）が最も多く、受入れ時期については、「7月」（35.9%）が最も多くなっています。

図2 受入れ学年の状況（26年度）

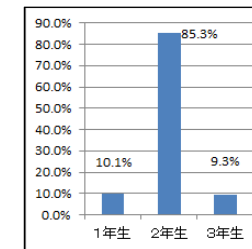
①小学生

N=188 複数回答 単位：%



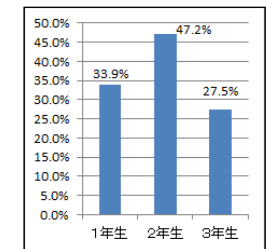
②中学生

N=814 複数回答 単位：%



③高校生

N=407 複数回答 単位：%



2

保育所における職場体験受入れの目的とプログラム内容

<保育所における職場体験受入れ目的>

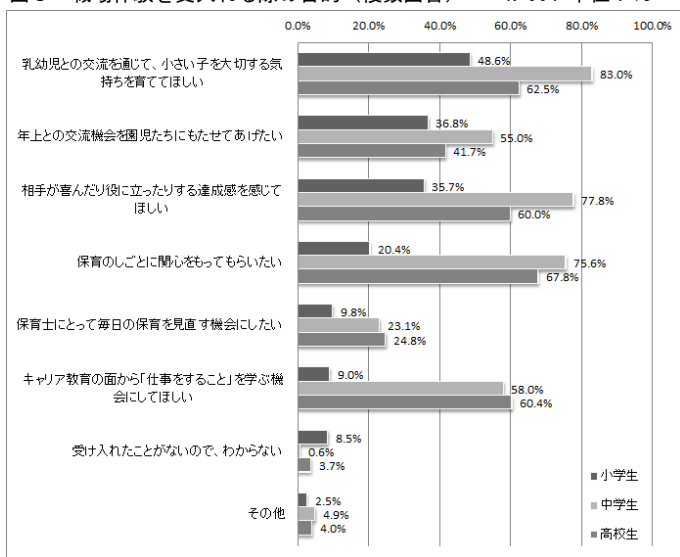
ポイント4

「相手が喜んだり役に立ったりする達成感を感じて欲しい」という受入れ目的も。受入れ年齢が上がるにつれ、保育のしごとへの関心やキャリア教育の視点が高まる。

保育所として、職場体験を受入れる際の目的について尋ねたところ、小学生、中学生、高校生それぞれの受入れに対して保育所の目的には違いがみられました。

小学生では、「乳幼児との交流を通じて、小さい子を大切に育ててほしい」が46.8%と最も多い状況でした。中学生では、「乳幼児との交流を通じて、小さい子を大切に育ててほしい」が83.0%で最も多い回答でしたが、「相手が喜んだり役に立っている達成感を感じてほしい」、「保育のしごとに関心をもってもらいたい」も共に7割を超える回答がありました。高校生では、「保育のしごとに関心をもってもらいたい」が最も多い回答で、年齢が上がるにつれて、保育のしごとへの関心やキャリア教育の視点が高くなる傾向にありました。

図3 職場体験を受入れる際の目的（複数回答） N=904 単位：%



<職場体験受入れプログラムの用意>

ポイント5

半数の保育所は、「どの生徒にも同じ体験をしてもらう」。学校や本人の希望に合わせて、体験内容を変えている対応も。

職場体験を受入れるプログラムを用意しているかをたずねたところ、「どの生徒にも同じ体験をもらうプログラムを用意している」が50.2%と最も多く、続いて「生徒一人ひとりに応じて体験してもらうことを変えている」(22.3%)でした。

「その他」の回答では、「特別なプログラムは用意せず、普段の保育の中に入れてもらう」「季節・時期などに応じて保育園の状況に合わせる」「生徒の希望や目的を考慮する」等の回答がありました。

<職場体験での体験内容>

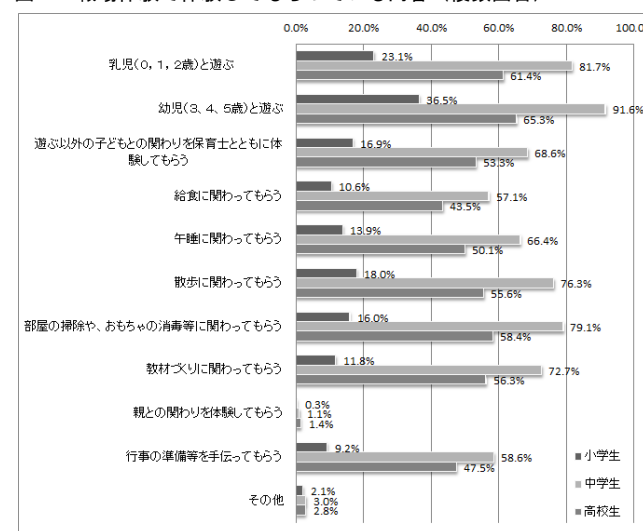
ポイント6

職場体験の内容では、「幼児(3, 4, 5歳)と遊ぶ」が最も多い。衛生管理等の観点から「0歳児とは関わらないようにしている」という回答がある一方、「必ず0歳児を抱っこしてもらい、小さい命に触れるようにしている」という回答も。

職場体験で体験してもらっている主な内容については、幼児(3, 4, 5歳)と遊ぶが小学生、中学生、高校生それぞれで最も多く、小学生では特に多い傾向がありました。

乳児(0, 1, 2歳)に関しては、「感染予防や衛生管理等の観点から、0歳児とは関わらないようにしている」という回答が複数ある一方、「必ず0歳児を抱っこしてもらい、小さい命にふれるようにしている」という回答もありました。また、同様の理由で「給食に関わる」体験は少数でしたが、その中でも「介助はしないが、マナーや姿勢、食物に関することに関わってもらう」「配膳・片づけはするが、給食室には入らない」「食事と一緒にするが準備に関わらない」等の工夫が行われていました。

図4 職場体験で体験してもらっている内容（複数回答） N=904 単位：%



3

「保育のしごと」と「保育のしごとの魅力」を伝える

<保育所における具体的な説明内容>

ポイント7

大切な命を預かる仕事として、①人権の尊重・子どもとのかかわり方、②個人情報の取扱いと守秘義務、③健康・衛生面と安全管理（感染症やアレルギー）、についても具体的に説明している。

大切な命を預かる仕事として、①人権の尊重や子どもとのかかわり方、②個人情報の取扱いと守秘義務に関する注意、③健康・衛生面と安全管理（感染症やアレルギー）、について、事前学習の有無にかかわらず、具体的に説明している状況がありました。

説明時の資料としては、公設公営園では地域の保育目標を使用しているところが多くみられましたが、独自に資料説明資料を作成しているという回答もありました。

<保育所のしごとを伝える工夫>

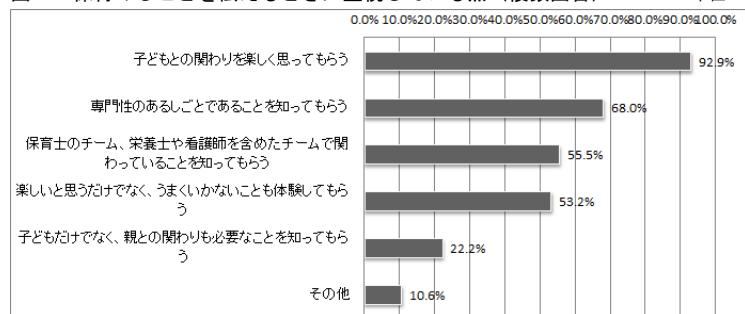
ポイント8

「保育のしごと」を伝える際には、9割の保育所が「子どもとのかかわりを楽しんでもらう」を重視。また、「チームで関わる専門性の高い仕事である」ことの説明にも重点を置く。

保育のしごとを伝える際には、「子どもとのかかわりを楽しんでもらう」が約9割と最も多い回答でした。一方、子どもとのかかわりを楽しむだけでなく、うまくいかないことや掃除、保育準備等の雑務を体験してもらうことで、保育のしごとの実態を伝えていました。また、「チームで関わる専門性の高い仕事である」ことの説明にも重点を置いていました。

その他、職場体験にあたり、命を預かる仕事であること、子どもとの接し方、保育のやりがい、個人情報の取扱いといった注意事項を伝え、体験を通じて、自分が保護者らに大切に育てられてきたことに気づくよう働きかけていました。

図5 保育のしごとを伝えるときに重視している点（複数回答） N=904 単位：%



<保育所のしごとの魅力を伝える工夫>

ポイント9

「保育のしごとの魅力」は、保育士が生き生きと働く姿を見せ、具体的な言葉でそれぞれの保育のしごとへの思いを次世代に伝える。主な魅力は、①信頼関係や愛着関係の大切さにかかわる仕事、②一人ひとりの成長を実感できる仕事、③慕われたり頼りにされる仕事、④自分自身が成長していける仕事。

保育のしごとの魅力を伝えるための工夫について自由記述で尋ねました。その中では、「保育のしごと」の主な4つの魅力について、さまざまな切り口から具体的な言葉や対応で伝えていました。

図6 保育のしごとの魅力を伝えるための工夫

「保育士のしごとの魅力」を伝えるために・・・

⇒保育士が生き生きと働く姿を見せ、具体的な言葉でそれぞれの保育のしごとへの思いを次世代に伝えている

1

「信頼関係や愛着関係の大切さにかかわる仕事」を伝えるために・・・

- ⇒子どもの持っている力や魅力を伝える
- ・子どものかわいらしさ、愛おしさを伝える
- ・体験者自身の幼少期をふりかえる

2

「一人ひとりの成長を実感できる仕事」を伝えるために・・・

- ⇒子どもの成長にかかわる喜びを伝える

3

「慕われたり頼りにされる仕事」を伝えるために・・・

- ⇒相手に喜ばれたり感謝される場面を意識して設ける

4

「自分自身が成長していける仕事」を伝えるために・・・

- ⇒体験者の気づきを促す
- ・体験者の経験や理解を深めるサポート
- ・体験者自身の成長を認め感謝を伝える

<職場体験後のかかわり>

ポイント10

職場体験後も、保育所の行事参加やボランティアへの声かけを行い、関わりを持てる工夫を重ねている。

保育所では、職場体験後も、参加可能な行事の紹介やボランティアの声かけを行い、「また」「いつでも」来てくださいという受入れ姿勢を示していました。実際にボランティアや実習生として再来園する人もいます。